

# 平成30年度 京都市域地域医療構想調整会議（第1回Aブロック会議）

日 時：平成30年11月27日（火）14:00～16:00

場 所：京都府医師会館 310 会議室

## 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 地域医療構想調整会議（ブロック会議）の趣旨について
- (2) 病院機能報告について
- (3) 各病院から「病院の役割と今後について」発表
- (4) 地域における各病院の役割について意見交換

4 閉会



## 京都市域地域医療構想調整会議の進め方について

## 【目的】

平成 29 年 3 月には「京都府地域包括ケア構想」を、平成 30 年 3 月には地域包括ケア構想等を踏まえ具体的施策等を記載した「保健医療計画」を策定

今年度は、これら計画を踏まえ、各関係機関、団体等とより連携を図り、目標達成に向け取組を図る。

## 【調整会議の進め方】

京都市域を除く各地域医療構想調整会議においては、全病院等が会議等に参画し、意見交換を実施している。

一方、京都市内においては、対象施設が多いため、全病院等が一同に参集することが難しいことから、地域の実情を考慮したブロックに分け、より多くの病院等の参画が得られるよう進める。

概 要		備 考
<p>○ 「救急病院群輪番編成表」の 4 ブロックを参考に、全病院等参加の組織を立ち上げ議論を進める。</p> <p>○ 協議内容により全体会とブロック会議に分け議論を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会⇒ブロック会議の状況把握、ブロックを越えた調整等</li> <li>・ブロック会議⇒疾病別医療需要の実状を踏まえた病院機能、在宅医療、介護サービスの連携等</li> </ul>		
(参考)		
区 分	対 象 数	
病院数 (精神科単科を除く)	97 施設 (うち、在支病：15 施設)	
診療所数	1,665 施設 (うち、在支診：205 施設)	
訪問看護 S T 数	168 事業所	
地区医師会数	13 地区	



## 【Aブロック】第1回ブロック会議発表資料

行政区	病院名	ページ番号
北区	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	1 ~ 2
	一般社団法人 薬師山病院	3 ~ 4
	医療法人財団康生会 北山武田病院	5 ~ 6
上京区	京都第二赤十字病院	7 ~ 8
	堀川病院	9 ~ 10
左京区	公益社団法人信和会 京都民医連第二中央病院	11 ~ 12



# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター			
所在地	京都市北区小山下総町 27			
許可病床数	300床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 300床 (45床)	医療療養 0床 (0床)	介護療養 0床 (0床)	
主な診療科目 （上位3つ）	内科(血、消、循)	外科	整形外科	
病床機能	高度急性期 0床	急性期 255床	回復期 0床	慢性期 0床
主な病院機能	救急告示病院 京都府がん診療推進病院 急性心筋梗塞（急性期）を担う病院 難病医療協力病院（アミロイドーシス） 訪問看護ステーション 健康管理センター			

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「患者さんを中心とした安全で質の高い医療を通して地域・社会に貢献する」という理念を掲げ、地域の中核病院として医療・福祉施設、公的機関と連携し、住民の多様なニーズに応え、切れ目の無い地域医療・包括ケアの充実に努めるという基本方針のもとに地域医療に携わっている。</li> <li>・5 疾病 5 事業においては、京都府がん診療推進病院の認定を受け、また在宅医療においても訪問看護ステーションを立ち上げて、地域医療・包括ケアの一助を担っている。二次救急指定病院として救急医療に積極的に取り組んでいるところである。</li> </ul>
<p>自施設の課題</p>	<p>現在、許可病床 300 床のうち 45 床を休床しているが、看護師不足が解消されない限り再開は見込めない。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域においてはこれまでの急性期医療の継続が求められており、更に今後増加すると予測されるがん、急性心筋梗塞、脳卒中、肺炎や高齢者の骨折への対応も可能な医療体制を堅持していくことが重要である。</li> <li>・回復期の需要の増大が予測される中、急性期を過ぎた患者の受入れ問題が課題となっている。対応方法として地域包括ケア病棟の増設と訪問診療、訪問看護ステーションの充実が上げられる。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<p>現在、急性期病棟は 221 床、地域包括ケア病棟は 34 床、現状のままで維持すべきと考えられる。5 年前の組織改変時に看護師の離職で 1 病棟閉鎖状態にあり、現在の急性期病棟では満床状態の時がある。今後は休床となっている 1 病棟については地域医療構想の調整会議でその都度相談をしていきたい。</p> <p>また、病床機能については、環境の変化に応じて必要ならば急性期または地域包括ケア病棟として再開も検討可能である。</p>



# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	一般財団法人 薬師山病院				
所在地	京都市北区大宮薬師山西町 15				
許可病床数	70 床（一般病床、療養病床の合計）				
病床の種別 （非稼働病床）	一般(緩和ケア)50 床 (20 床)	医療療養 0 床 (0 床)	介護療養 0 床 (0 床)		
主な診療科目 （上位3つ）	緩和ケア内科		内科		
病床機能	高度急性期 0 床	急性期 0 床	回復期 0 床	慢性期 0 床	その他 50 床
主な病院機能	緩和ケアを担う病院（完全独立型ホスピス）				

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>○完全独立型の緩和ケア病院・ホスピスとして、主に末期癌の入院患者に対する緩和医療を提供している。 現在、緩和ケア外来の需要は殆どない。</p> <p>○許可病床 70 床のうち 20 床を休床として届け出ており、稼働可能な病床は 50 床である。しかし、医師・看護師等の人員数に比例して稼働させているため、実際の平均稼働病床数は 30 床前後、稼働率は 55～60%程度である。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>○他の機能の病床や介護施設を有していない。よって、病状が安定し入院が長期化した患者の退院支援及び次の療養の場の提供に苦慮している。</p> <p>○稼働可能な病床を 50 床有しているにも関わらず、稼働率が低いこともあり、地域医療への貢献が十分にできていない可能性がある。より一層の人員確保を目指すところである。</p> <p>○癌診療を担う地区医師会等との連携をより一層強化し、地域の病院、診療所との役割分担を行う。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>○在宅医療困難な末期癌患者や、急性期病院で治療困難となった癌患者に対する療養の場としての役割を果たす。</p> <p>○介護・福祉施設等との連携強化を図り、施設における看取支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔・看取りに関する教育支援</li> <li>〔・看取り時期に入った癌患者に対する当院へのスムーズな受入</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<p>○今年度の診療報酬改定に伴い、今後、京都市内の緩和ケア病棟の中でも急性期・慢性期といった機能分化が進んでいく可能性がある。そこで当院としては、比較的慢性期の経過をたどる癌患者も受け入れることで稼働率を上げ、地域医療への貢献度も強化していく方針である。</p>

# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	医療法人財団康生会 北山武田病院			
所在地	京都市北区上賀茂岩ヶ垣内超99番地			
許可病床数	68床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 68床 (8床)	医療療養 床 (床)	介護療養 床 (床)	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	皮膚科	歯科	
病床機能	高度急性期 床	急性期 床	回復期 床	慢性期60床
主な病院機能				

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活機能障害、急性期・慢性期疾患、生活習慣病の入院治療</li> <li>○一般内科、神経内科、消火器内科、循環器内科、形成外科、皮膚科、美容皮膚科、整形外科の一般診療</li> <li>○生活習慣病、下肢静脈瘤、小児アレルギーの専門診療</li> <li>○歯科、口腔歯科、矯正歯科、審美歯科外来及び訪問歯科</li> <li>○在宅医療として訪問診療に取り組む</li> </ul>
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地区医師会等と連携し、地域の病院としての役割をはたす。</li> <li>○訪問部門を充実させる</li> <li>○美容皮膚科や形成外科、審美歯科など美容の相談にのり、一人ひとりにあった治療を行う。</li> </ul>
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地区医師会をはじめとして地域の様々な機関と連携し、訪問医療、訪問歯科、美容等地域住民の生活に密着した医療サービスを提供する。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	

# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	京都第二赤十字病院			
所在地	京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355 の 5			
許可病床数	672 床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 672 床 (33 床)	医療療養 床 ( 床)	介護療養 床 ( 床)	
主な診療科目 （上位3つ）	消化器内科	循環器内科	小児科	
病床機能	高度急性期 672 床	急性期 床	回復期 床	慢性期 床
主な病院機能	救命救急センター（三次）、地域医療支援病院 地域がん診療拠点病院、臨床研修指定病院 脳卒中（急性期）を担う病院 ※ SCU 急性心筋梗塞（急性期）を担う病院 重症外傷（急性期）を担う病院 小児救急（急性期）を担う病院 周産期医療（地域）を担う病院			

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三次救急等高度救急医療の提供           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急車搬入件数は、府内トップクラスの実績</li> <li>・ 心筋梗塞等心疾患、脳卒中等脳血管、小児急性期、</li> <li>・ 重症外傷対応についても、府内トップクラスの実績</li> </ul> </li>   <li>○ がん、心・脳血管等高度急性期医療の提供           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院症例全体件数は、府内で2位の実績(2016年度)</li> <li>※ 循環器、消化器、小児、外傷は医療圏トップの症例件数</li> <li>・ 全身麻酔件数は、4,000件以上※全体件数で7,000件以上</li> <li>・ 循環器領域でPCI症例件数は府内でトップ</li> <li>・ DPC特定病院群(旧Ⅱ群)に選定</li> </ul> </li> </ul>
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高度急性期機能を担う基幹病院として、病病・病診連携を一層強固なものとし、地域完結型地域包括ケアシステムの実現に向けて対策を強化</li> </ul>
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 救急医療機能           <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化等により増加が想定される「外傷(大腿骨骨折等)」</li> <li>・ 「脳卒中」「心筋梗塞」を中心とした救急患者の積極的受け入れ</li> </ul> </li>   <li>○ 高度急性期医療機能           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消化器・血液等がん診療を中心とした手術、治療等患者</li> <li>・ 心、脳血管疾患、その他高度な専門診療を要する患者の積極的受け入れ</li> </ul> </li>   <li>○ がん検診等健康管理事業の強化           <ul style="list-style-type: none"> <li>全国死亡疾患の1位であるがん疾患について、がん検診を推奨し、京都府民の健康寿命延伸に貢献</li> </ul> </li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 救急医療機能の強化           <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年10月から脳卒中ケアユニット(SCU)を整備し、脳血管系医師の24時間365日待機体制で急性期脳卒中患者への対応を強化</li> </ul> </li>   <li>○ 機能充実のための病院増改築           <ul style="list-style-type: none"> <li>高度で質の高い医療の提供継続並びに高齢化等による医療需要増への対応として、地域の人口動態・疾病構造を考慮したうえで病院増改築に向けた計画を策定</li> </ul> </li> </ul>

# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	堀川病院			
所在地	京都市上京区堀川通今出川上る北舟橋町 865 番地			
許可病床数	198床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 198床 （0床）	医療療養 0床 （0床）	介護療養 0床 （0床）	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	外科	整形外科	
病床機能	高度急性期 0床	急性期 94床	回復期 104床	慢性期 0床
主な病院機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急告示病院</li> <li>・在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院）</li> </ul>			

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二次救急患者等の受入を始め、急性期機能を担う病院として医療を提供</li> <li>○地域包括ケア病棟を104床有し、急性期病院からのポストアキュート、在宅からのサブアキュートの受入を行っている</li> <li>○在宅療養あんしん病院に登録し、在宅療養中の高齢者が体調を崩したときに、スムーズに病院で受診し、必要に応じて入院ができるよう体制整備を図っている。</li> </ul>
<p>自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅－外来－救急－回復期を支えるために、幅広い人材の確保が必要である。</li> <li>○在宅療養を推進するためには、家庭での介護力UPと地域の医療機関、介護施設等との連携強化が必要である。</li> </ul>
<p>地域において今後担う役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○急性期病院が過剰な当地域において、地域包括ケア病棟において在宅復帰を支援する。</li> <li>○退院後は訪問診療だけでなく、訪問看護、訪問リハビリテーション等の介護サービスを提供し、「ときどき入院、ほぼ在宅」の療養スタイルを支援する。</li> <li>○健診事業にも力を入れ、疾病の早期発見と生活習慣病の予防に努める。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当面、現状（急性期病床94床、回復期病床107床）の編成で運営する。</li> <li>○2025年に向けて、在宅療養を支える部門（訪問診療、看護、リハビリテーション、通所リハビリテーション等）を強化したい。</li> </ul>



# 病院の役割と今後について

## 【基本情報】

病院名	公益社団法人信和会 京都民医連第二中央病院			
所在地	京都市左京区田中飛鳥井町8-9			
許可病床数	172床（一般病床、療養病床の合計）			
病床の種別 （非稼働病床）	一般 172床 （ 床）	医療療養 〇床 （〇床）	介護療養 〇床 （〇床）	
主な診療科目 （上位3つ）	内科	神経内科	リハ	精神科
病床機能	高度急性期 〇床	急性期 34床	回復期 101床	慢性期 34床
主な病院機能	③救急告示病院 ⑦在宅支援を担う病院 ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院			

### 例示

- ①周産期医療〇〇病院（センター）
- ②救命救急センター（三次）
- ③救急告示病院
- ④地域災害拠点病院
- ⑤原子力災害拠点病院
- ⑥へき地医療拠点病院
- ⑦在宅支援を担う病院（在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院）
- ⑧地域がん診療拠点病院
- ⑨脳卒中（急性期）・（回復期）・（維持期）を担う病院
- ⑩急性心筋梗塞（急性期）・（回復期）を担う病院
- ⑪難病医療協力病院
- ⑫エイズ拠点病院

## 【現状と今後について】

<p>自施設の現状</p>	<p>本院は、地域の健康を守るために、大学病院、公的病院、開業医、介護事業所のみなさんと連携し、救急から在宅医療・介護まで幅広い取り組みを行っています。リハビリテーション、認知症、在宅分野に力を入れ、外来から入院、在宅を連携の中で強化しています。現在、老朽化した南館の全面建て替え工事を行っており、入院機能は、一般急性期 34 床、障害者病棟 34 床、回復期リハ 51 床、地域包括ケア病床 50 床の運用となっている。往診センターを配置し、現在約 320 件の管理を行っている。その他、健診センター・透析センターを配置している。</p>
<p>自施設の課題</p>	<p>当面、南館のリニューアル工事の完成。</p>
<p>地域において今後担う役割</p>	<p>在宅から入院、外来、保健予防まで地域医療を支える病院としての役割を担うことを目標としている。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>2018年11月、3年越しの南館全面建て替え工事が完了する。12月から緩和ケア病棟をオープンし、病棟構成は、一般急性期 43 床、回復期リハ 51 床、地域包括ケア病床 50 床、緩和ケア病床 21 床、全体 165 床運用となる。地域包括ケア時代のなかで、地域で安心して住み続けられるため、そのサポートを行う病院として役割を果たす。</p>